

第一種衛生管理者総合問題集 INDEX

全問題 P. 1～75 全300問

労働生理	P. 1～15	60問
労働衛生有害業務以外	P. 16～30	60問
関係法令有害業務以外	P. 31～45	60問
労働衛生有害業務	P. 46～60	60問
関係法令有害業務	P. 61～75	60問

[使用方法]

別冊解説書トップページに解答用紙があります。ミシン目から切り離しコピーして 何度か復習できるようにしてご使用下さい。

解答番号は、解説書解答用紙の次に科目単位で表示しております。採点用にご利用して下さい。詳細の解説については、解説書を参照して下さい。

解説文末尾の赤字表示はテキストの科目とそのページを表示しております。

赤字の表は有害業務テキスト末尾のまとめ表の番号を表示しております。

問 1 特殊健康診断に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 健康診断の結果得られた異常所見の業務起因性の有無を判断することは、事後措置を進める上で重要である。
- (2) 実施にあたっては、現在の作業内容及び有害条件のばく露状態を把握してはじめて、適切な健診デザインができる。
- (3) 有機溶剤等健康診断における尿の採取は、任意の時期に行ってもよいが、鉛は生物学的半減期が短いので、健康診断における尿又は血液の採取時期は、厳重にチェックする必要がある。
- (4) 振動障害の健康診断では、1年に2回のうち1回は冬期に行うのが適切である。
- (5) 化学物資等の吸収が長期間に及ぶと体内濃度は上昇していくが、ある時点で吸収量と排泄量が等しくなり、体内濃度は上昇しなくなる平衡状態となる。

問 2 作業環境測定に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 作業環境測定は、作業が行われている2日間にわたって行うことが望ましい。
- (2) A測定の評価が悪いのに、B測定の評価がよい場合は、測定のデザイン、分析等に誤りがあることが多い。
- (3) 作業環境測定を実施する場合、まず測定及び評価の対象となる作業場の範囲、すなわち単位作業場所の設定を行うが、これは必ずしも建築物の単位や生産などの作業単位ではない。
- (4) 同一作業場についての測定デザインは、作業環境管理の変動に応じて変更されるべきものである。
- (5) A測定の第一管理区分とは、測定を実施した作業場所の95%以上の場所で気中有害物質濃度が管理濃度を超えている状態をいう。

問 3 職業性疾病に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 凍瘡とは、皮膚組織の凍結壊死を伴うしもやけのことで、0℃以下の寒冷にばく露することによって発生する。
- (2) 潜水業務における減圧症は、顕著な症状として、四肢の関節に強い痛みが生ずる。
- (3) 熱痙攣は、多量の発汗により体内の水分と塩分が失われたところへ、水分だけが補給されたとき、体内の塩分濃度が低下することにより起こる。
- (4) セメントに直接接触することにより、接触性皮膚炎を起こすことがある。
- (5) アーク溶接作業が眼に及ぼす顕著な障害として、紫外線による電光性眼炎がある。

問 4 作業環境における騒音及びその障害に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 騒音性難聴は、初期には気付かないことが多く、また、治りが悪いという特徴がある。
- (2) 等価騒音レベルは、単位時間当たりのピーク値の騒音レベルを表し、変動する騒音に対する人間の生理・心理的反応とよく対応しており、広く用いられる。
- (3) 騒音性難聴では、通常の会話音より高音域の4000Hz付近から聞こえにくくなり、これをC⁵dipという。
- (4) 騒音は、自律神経系や内分泌系へも影響を与えるため、騒音ばく露により、交感神経の活動の亢（コウ）進や副腎皮質ホルモンの分泌の増加が認められることがある。
- (5) 騒音レベルの測定は、通常、騒音計の周波数補正回路のA特性で行い、その単位はdb(A)である。

総合問題解答番号表

労働衛生 2

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問10
3	5	1	2	3	2	2	4	4	4

問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18	問19	問20
1	3	4	2	1	1	3	5	2	5

問21	問22	問23	問24	問25	問26	問27	問28	問29	問30
3	2	3	5	5	2	1	2	4	4

問31	問32	問33	問34	問35	問36	問37	問38	問39	問40
5	3	2	1	3	2	2	2	4	1

問41	問42	問43	問44	問45	問46	問47	問48	問49	問50
2	1	1	2	1	4	2	4	3	2

問51	問52	問53	問54	問55	問56	問57	問58	問59	問60
1	3	4	5	1	3	1	5	3	2

労働衛生 2

労働衛生有害業務に係るもの

問1 【3】

鉛はいったん体内に入ると体外に排泄されるまでの期間（半減期）が7年～10年と非常に長いので、随時採決でもよい。

有機溶剤の場合は、半減期が3，4日と短く休み明け日などの検診は正確性が欠けることになり、作業終了直後の厳重な時間チェックが必要ある。

衛2-7・17・26・42

問2 【5】

第1管理区分とは、単位作業場の95%以上で気中有害物質の濃度が管理濃度を超えない状態をいう。

衛2-32・33 表-7

問3 【1】

凍瘡とは、0℃以上の寒冷と湿気により起こる皮膚障害で、赤く皮膚が腫れかゆみを伴う皮膚障害のことである。皮膚組織の凍結壊死は、0℃以下の環境で発生する凍傷であり、冬山登山等で起こる場合が多い。

衛2-5・6・9・21・30

問4 【2】

騒音の指標に用いられる等価騒音レベルは、変動する騒音エネルギーを一定時間内の総エネルギーの平均値を表示し、騒音に対する人間の生理、心理的反応に対応した値である。

衛2-7・生-22